

開院20周年に寄せて



静岡県立静岡がんセンター 病院長
上坂 克彦

関係のご施設の皆様、日ごろから静岡がんセンターとの連携にご協力くださり、ありがとうございます。オミクロン株が蔓延する中、皆様のご施設でも日々ご苦労なさっていることと思います。静岡がんセンターでも、新型コロナに対する感染対策やベッド調整に苦労する日々が続いていますが、そうした中でもがん医療を守り発展させるべく努力を続けています。

静岡がんセンターは2002年9月に開院し、早いもので、今年の秋には20周年を迎えます。開院時から勤務する職員にとってはあっという間の20年でしたが、この間にもがん医療は劇的に進歩・変化してきました。外科領域では、体腔鏡手術やロボット支援手術などの低侵襲性手術が普及しました。新しい補助療法の開発により、悪性度の高い膵・胆道癌においても、術後生存率が顕著に改善しました。内科領域では分子標的薬が次々に開発され、今やがんゲノム医療が現実のものとなりました。当院も、全国で12施設あるがんゲノム医療中核拠点病院の一つに指定されています。さらに免疫チェックポイント阻害薬の開発により、免疫療法が第4の癌治療として台頭しました。放射線治療においては、開院時から有している陽子線治療装置に加え、追尾機能を備えた強度変調放射線治療を行うことができるリニアックを導入するなど、高精度化を図ってきました。



一方、県東部でも高齢化が一層進み、患者さんを取り巻く社会環境が急速に変化しつつあります。新型コロナの蔓延とも相まって、さまざまな困難を抱える患者さんが増えていることを実感します。がん医療には、「治す」とともに「支える」観点が一層重要になっています。

静岡がんセンターは、20年を機に、「治し、支え、進化する」がんセンターとしてさらに発展できるよう目指してまいります。引き続き、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

もくじ CONTENTS

病院長挨拶…………… P1
副院長の紹介…………… P2

しずがん院内アート探訪…………… P2
特集 静岡がんセンターにおける入院前支援… P3
地域医療連携室からのお知らせ…………… P4

当院には5名の副院長が、各診療科や部門の業務に加え病院全体の方針決定や運用の責任者としての役割を分担しています。今回は3名の副院長をご紹介します。今回は以下2名の副院長をご紹介します。



■ 小野 裕之 副院長

皆さん、こんにちは。

内視鏡科部長兼副院長の小野裕之と申します。

副院長業務としては現在 RMQC 室長(医療の質・安全管理室長)を拝命しております。RMQC 業務は多岐にわたっております。いかに当院の提供する医療の質を向上させるか、また人である限りゼロにすることはできないミスはどうやって減らすか、そのミスが重大事故につながらないようにはどうすればよいのか、などを議論し、対策を検討しています。

残念ながら医療事故が起こった際に患者さんやご家族にいか理解し、納得いただけるか、どのように対応していくか、非常に重たい命題を抱えておりますが、病院になくはならない部門と思っております。ストレスフルではありますが。

さらに、臨床家としての消化管内視鏡の診断・治療も副院長になる前と変わらずに行っています。消化管腫瘍でお困りの際は「迷惑じゃないか？」などのご遠慮無用ですのでお気軽に内視鏡科にご紹介いただければ幸いです。



■ 庭川 要 副院長

皆様、いつもお世話になっております。寺島先生とともに、外科系担当副院長を勤めております庭川要と申します。副院長としての職掌は、診療報酬、電子カルテシステム部会、機械備品購入、消耗品物流、防災関連などを受け持っております。

大学卒業以来、ずっと臨床一筋でやってきたため、管理職の職掌になかなか慣れないのが実感ですが、何とか病院のより一層の発展に微力を尽くせればと浅学非才を顧みず奮闘中です。

泌尿器科部長も兼務しております。泌尿器科では、人員不足から PSA 健診の一部制限など、地域医療に大変ご迷惑をおかけしております。マンパワーの充足に努力中で、なるべく早期に解決したいと思っております。幸い今年7月から新しい医員を迎えられる見込みで、診療体制の補充がいくらか出来そうです。

今後ますます、地域の医療連携が重要となって参ります。引き続きのご指導ご鞭撻をどうかよろしくお願い致します。

しずがん 院内アート探訪

このコーナーでは静岡がんセンター庁舎の院内のアート作品をご案内しています。今回は昨年11月に寄贈いただいた絵画をご紹介します。

栗原高光作 油絵「マスト」(平成9年第29回日展特選受賞作品)



2021年11月30日(火)、栗原高光氏、静岡がんセンター山口総長、上坂病院長などが参加し、絵画の贈呈式が執り行われました!

〈栗原高光氏からのコメント〉

南スペインを旅した時、地中海に面したリゾート地アルメリマールの港で、ヨットのマストが林立する情景に心をひかれ、スケッチをしました。私にとって大変思い出の深い作品で、鑑賞いただいた皆様に、私の受けた感動がいくらかでも伝われば幸いに存じます。静岡がんセンターで多くの方の目に触れ、気軽に油絵というものを楽しんでもらえれば、作者としてこれに過ることはありません。



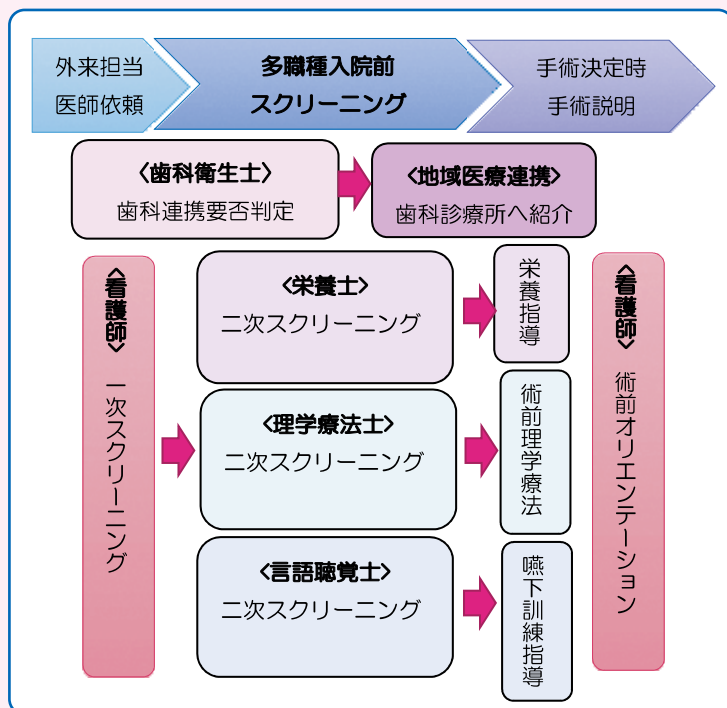
静岡がんセンターにおける入院前支援

～多職種による周術期入院前支援～

患者家族支援センター

当院では、2020年10月末より術後合併症のリスクの高い高齢の患者さんを対象に、多職種による入院前支援を開始しました。入院前に支援を行うことで、早期回復・早期退院に繋がることを患者さんご家族に説明しています。担当医師の依頼を受けて、患者家族支援センターで、看護師・歯科衛生士・栄養士・理学療法士・言語聴覚士がスクリーニングを行い、必要に応じて介入します。現在、胃外科・肝胆膵外科・大腸外科・呼吸器外科のみ行っていますが、今後診療科を拡大していく予定です。

周術期入院前支援の流れ



看護師

手術前から生活や体調を整えることを指導。問診で生活状況やこれまで利用してきた社会資源などを確認し、状況に応じて必要な支援に繋げる。



栄養士

栄養状態不良による術後合併症を防ぐために、食事状況や体重の増減について確認し、栄養状態の維持・改善のために指導を行う。

歯科衛生士

不衛生な口腔内による肺炎などの合併症を防ぐため、齲蝕や歯周病、入れ歯の不具合等を確認し、歯科診療所の受診をおすすめる。

言語聴覚士

手術前に嚥下状況について確認し、必要時詳しい検査や頸部筋力訓練を行い、術後の肺炎予防のために指導を行う。



理学療法士

手術内容や肺疾患・肺機能などを確認し、体力維持・呼吸筋力強化のために指導を行い、回復をめざす。

地域医療連携室よりお知らせ

① 2021 年度静岡県がん医療地域連携交流会 スピンオフセミナーを開催しました。

新型コロナ感染予防の観点から顔をあわせての交流ができない状況であるため、本年度は静岡がんセンターからの医療情報の提供としてセミナーを開催いたしました。

当院の3名の医師が講演を行いました。県内40名の医療従事者の方のご参加をいただきました。

2022年1月15日(土)14:00～16:00 Web配信で実施。

テーマ：「**転移性腫瘍の早期発見と治療**」

～がんサバイバーのQOL低下を防ぐために～

① 転移性骨腫瘍・骨原発悪性腫瘍を外来で見逃さないコツ

講師：整形外科部長 片桐 浩久医師

② 転移性脳腫瘍について

講師：脳神経外科医長 三矢 幸一医師

③ 転移性腫瘍に対する放射線治療について

講師：放射線治療科部長 原田 英幸医師



片桐医師



三矢医師



原田医師



② オンラインセカンドオピニオンを開始しました。

遠方にお住いの患者さんが、自宅等から、セカンドオピニオンを受けることができます。また、患者さんと同居していない家族も、それぞれの自宅等から参加することができます。

オンラインセカンドオピニオンの詳細

- 対象患者 国内在住の患者及びその家族等
- 実施時間 原則 30分
- 料金 30,000円(税込)
- 予約方法 各医療機関の地域連携担当部署より当院地域医療連携室にご連絡ください。
お申込み完了後 患者又は家族にオンライン診療システムへの登録手続きをご案内いたします。
- 実施診療科等については静岡がんセンターのホームページをご覧ください。地域連携室にお問い合わせください。



編集 後記

静岡がんセンターの庭園の一角、イングリッシュガーデンの小さい池には赤い金魚がたくさんいます。冬の金魚はあまり動かずじっとしていますね。まるでコロナ禍に家に閉じこもる我々のようです。しかし金魚たちも、もうしばらくすればびっくりするほど活発に泳ぎ始めるはずです。金魚が元気よくなるころには、私たちの生活も一変することを祈るのみです。

さて、静岡がんセンター機関紙「やまびこ」は、発行を始めて4年になりました。来年度より編集責任者が交替します。次号以降も変わらずお付き合いいただきますようお願い申し上げます。(S.H)

